

## 審査結果の要旨

報告番号	甲 第 1255 号	氏名	近藤 昭彦
審査担当者	主査 田中 永一郎 (印)	副主査 西 昭徳 (印)	副主査 森岡 基浩 (印)
主論文題目: Characteristics of oxygenated hemoglobin concentration change during pleasant and unpleasant image recall tasks in patients with depression: Comparison with healthy subjects (うつ病患者における快・不快イメージ想起課題中の酸素化ヘモグロビン濃度変動の特徴: 健常者との比較)			

### 審査結果の要旨 (意見)

大うつ病性障害患者の快・不快画像想起課題中におこる大脳皮質の酸素化ヘモグロビン濃度変動を多チャンネル近赤外分光法を用いて測定し、健常者と比較した研究である。大うつ病性障害患者の酸素化ヘモグロビン濃度は不快条件で、両側の前頭葉領域で健常者よりも低く、左前頭部でハミルトンうつ病スコアと酸素化ヘモグロビン濃度との間に負の相関がみられた。この結果は、感情に関連する画像想起課題中の酸素化ヘモグロビン濃度は大うつ病性障害患者の精神生理学的マーカーとして有用であることが示唆された。本論文は、学位論文として適当であると考えられる。

### 論文要旨

大うつ病性障害 (MDD) を有する患者は、注意や認知制御に加え感情などに障害を示す。いくつかのイメージング研究で MDD 患者の神経生理学的異常は調査されているが、依然として不明である。我々は、MDD 患者の快・不快画像想起課題中に起こる、脳の酸素化ヘモグロビン濃度変動 ( $\delta$  Oxy-Hb) を多チャンネル近赤外分光法 (NIRS) を用いて測定し健常者と比較した。

被験者は年齢と性別が一致した健常群と MDD 群、各 25 名で、患者は DSM-IV-TR 基準に従って分類された。我々は、快 (例えば、子犬) 画像と不快 (例えば、蛇) 画像を用いた画像想起課題中の、前頭葉および側頭葉における  $\delta$  Oxy-Hb を測定した。

MDD 群の  $\delta$  Oxy-Hb は、不快条件で両側の前頭領域で健常群よりも有意に低かった。また、不快条件における左前頭部で HAM-D スコアと  $\delta$  Oxy-Hb との間に有意な負の相関が観察された。

我々は、感情に関連する画像想起課題中の  $\delta$  Oxy-Hb は、MDD 患者の精神生理学的マーカーとして有用であり得ることを示唆した。特に、左前頭葉における  $\delta$  Oxy-Hb の減少はうつ病の重篤度に関連する可能性が示唆された。